

特集に寄せて

松本 浩実

川崎医療福祉大学

加齢に伴う筋肉、骨、関節の量的な減少、質的劣化により移動能力が低下し、要介護のリスクが高まるロコモティブシンドロームと判定される人（ロコモ度1以上）は4,590万人と推定されています。実際に、令和4年度の国民生活基礎調査による要介護になった原因では関節疾患が10.2%となっていることから、運動器の健康を維持することや運動器疾患の進行予防を行っていくことは要介護者の軽減に直結すると考えられます。

運動器の衰えは転倒、骨折に直結します。代表的な運動器疾患である変形性膝関節症や脊柱管狭窄症は疼痛、筋力低下、バランス障害、可動域制限などを通じて歩行や姿勢の安定性に影響を及ぼし転倒を誘発します。また骨粗鬆症による椎体圧迫骨折、大腿骨近位部骨折後には再転倒、再骨折が連鎖することから、骨折後の患者に対する転倒予防も極めて重要となっています。近年、二次性骨折予防継続管理料が診療報酬で新設されたのも新しいところです。このような背景から、運動器疾患が転倒リスクに与える影響やエビデンス、運動器疾患患者の転倒予防に向けた具体的なアプローチなどについて、臨床現場で運動器疾患患者の診療に携わりながら臨床研究を実施している理学療法士の方々に執筆を依頼しました。

篠永篤志（川崎医科大学高齢者医療センターリハビリテーションセンター）：変形性関節症および人工関節患者における転倒

和田 崇（鳥取大学医学部附属病院リハビリテーション部）：脊椎脊髄疾患と転倒

片岡英樹（長崎記念病院リハビリテーション部）：骨粗鬆症性脊椎椎体骨折と転倒～身体機能の低下と疼痛の観点も含めて～

川端悠士（JA 山口厚生連周東総合病院リハビリテーションセンター）：大腿骨近位部骨折後の転倒～再発予防にむけた戦略～

普段、運動器疾患患者の診療に関わっておられる会員の方々のみならず、様々な職種の方に運動器疾患と転倒についての理解と知識を深めていただき、実践に活かしていただけることを願っています。

連絡先：川崎医療福祉大学 松本浩実

〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288

TEL : 086-462-1111 (代表) 内線 54021

E-mail : h.matsumoto0612@mw.kawasaki-m.ac.jp

受理日 : 2026. 1. 15